

第5次

北区地域福祉活動計画



- 01 **座談会** 第5次北区地域福祉活動計画への思い
- 03 **第5次北区地域福祉活動計画 策定について**
- 08 **6つの推進プロジェクト**

2024-2028 **年度**

北区社会福祉協議会

第5次 北区 地域福祉 活動計画

座談会

北区の福祉を考え、行動する「地域福祉活動計画」がはじまって20年。令和6年度からの第5次計画ではどのようなことを目指し、どう実現していくのか。計画推進メンバーを代表して3人の方に語っていただきました。

ボランティア、学区自治会、大学。 各分野で福祉に取り組む3人

司会：第5次地域福祉活動計画は令和6年度からの5か年計画として策定。基本理念は第4次計画から継続して「誰もが健康で安心して住み続けられるまちづくり」、全体目標は「つ・な・が・り」をつくることです。今日は、計画推進メンバーの3人にこの基本理念と目標に込められた想いを話していただきます。まずは、それぞれ自己紹介をお願いします。

井階：点訳の「北コスモス会」や精神保健福祉の「かけはし」をはじめ、障害関係のボランティア活動をいろいろとやっている井階と申します。ボランティア歴は今春で28年。地域福祉活動計画には第1次から参加し、第2次からは地域福祉サポーターとして、北区全体を視野に入れた地域づくりの活動をしています。

山崎：北区東志賀学区の連絡協議会会長で区政協力委員長をしている山崎と申します。平成21年から学区19町内の自治会長、平成22年から民生委員、平成28年から区政協力委員長を務めています。1人でも多くの方に「この学区に住んでよかった」と思ってもらえるように活動しています。



藤井：愛知学院大学社会連携センターの藤井と申します。社会連携センターは、大学と地域をつなぐ役割をもち、様々な活動をしています。私は主に「学生が地域で学ぶ場」をつくる活動をしています。福祉活動計画では第4次の計画策定から携わり、第5次では学識経験者として、専門は福祉ではありませんが、多様な部署・団体とつなぐ役割を担ってきたところから、推進者であり実施者という役割をもって関わっています。

地域の現状と課題、 計画に対する想いについて

司会：第5次計画の策定にあたり、地域の現状と課題、計画に対する想いについてお聞きかせください。

井階：北区では、20年積み上げてきた計画の推進や社会福祉協議会の事業展開、学区自治会・ボランティアの活動、努力によって、着実に進んできていると思います。でも、時代や人の変化の力はすごく大きくて、その変化に抗って活動を進めていかないと、人々が孤立せず安心して暮らしていくことが難しい時代になってきていると実感しています。今までの活動の担い手であった方々の高齢化が進んでいる一方で、新

人と人がつながり、未来につながる地域福祉を





学識経験者として大学や 企業・団体と地域をつなぐ

藤井 勉 さん

愛知学院大学社会連携センターで、地域・社会のニーズと大学がもつリソースをマッチング。第4次計画では「きづき・つなぐプロジェクト」を推進、「出張福祉のこころを育てるプロジェクト一覧」冊子を作成。



愛知学院大学
社会連携センター

東志賀学区
連絡協議会
会長



ご近所みんなで支えあう 地域コミュニティを目指し活動

山崎 悦男 さん

東志賀学区の連絡協議会会長、区政協力委員長として、地域支えあい事業をはじめとする自治活動を長年にわたり推進。第4次計画では持続可能なつながりづくりの冊子を作成。

ボランティア歴28年。北区の 地域福祉を草の根で推進

井階 弥可 さん

ボランティア歴28年。点訳の「北コスモス会」、精神保健福祉の「かけはし」をはじめ、様々な活動で北区の地域福祉を推進。第1次計画から参加し、第2次から地域福祉サポーターとして活動。



北コスモス会・
かけはし

しい担い手(世代)へのバトンタッチがなかなか進まない、ここが一番の大きな課題だと感じています。第5次は引き続き「つながりをつくること」を目標に、活動者がそれぞれの立場を超えてつながっていくことはもちろん、困りごとを抱えている人たちも含めて地域住民がつながっていくことを目指します。特に、新しい担い手とのつながりに注力していきたいと考えています。

山崎: 少子高齢化が進む中、民生委員活動を通して様々な事例に遭遇しました。一人暮らしの方も多くなり、認知症の症状も見られるようにもなりましたので「ご近所のつながりづくりがいかに大事か」と感じています。民生委員や町内会の皆さんが見守りといっても限度がありますので、できるだけご近所の皆さんで見守り・見守られる、そういうことをやっていけたらいいと思います。第4次から参加しておりますが、福祉の問題は奥が深いので、皆さんと一緒に勉強しながら、一つでも二つでもいいことがあれば、取り込みながら進めていきたいと考えております。

司会: 作業部会の様子や計画に対する想いについては、藤井先生お願いします。

藤井: 作業部会は第5次計画を作っていく過程で、作業部会委員の皆さんに集まっていただいて議論する場

です。多様な経験・見識をお持ちの方が集まっているので、毎回たくさんのお話が出てきて時間内に収まりきれないほど。それだけ想いの強い方々が、熱をもってこの活動計画を作りました。計画に対する想いは「つながりづくり」が重要なテーマになっているように「どうつながっていけるか」を考えていくことが大事だと思っています。計画を推進していく中で、つながりづくりを試行錯誤しながらチャレンジしていきたいと思います。

5年後の明るい未来に向けて 北区に住む人みんながつながる

司会: 3名の方からお話を伺い、地域福祉活動のキーワードは「つながり」だと感じました。この第5次計画は「5年後の北区の姿をイメージ」しながら策定しており、地域福祉プロジェクトに参加する区民の方、関係機関、団体が増えることがこの計画の成果であると思っています。本日はありがとうございました。



座談会全編は
youtubeにて公開!

<https://youtu.be/dDXHd9GjI28>



第5次北区地域福祉活動計画 策定について

2023年度

活動計画 策定



社協
(社会福祉協議会)

作業部会委員

2024~28年度

活動計画 推進



計画推進メンバー
= 新たな担い手

計画推進メンバー
= 作業部会委員

社協
(社会福祉協議会)

- ◆第4次北区地域福祉活動計画から「北区の福祉」を考える計画として、地域住民・ボランティア・関係機関・行政等とともに内容策定。
- ◆策定にあたり、地域住民・関係機関等で構成するメンバーとともに、作業部会を8回開催。
- ◆「5年後の北区がどうなるといいか」を一緒に考えながら、「重点目標(柱)」「基本目標」「取り組み方針」「推進体制」「評価内容」を検討。

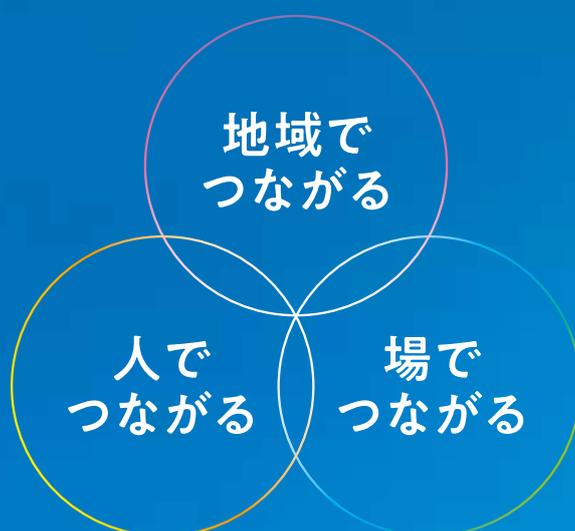
基本理念

誰もが健康で安心して住み続けられるまちづくり

全体目標

「つ・な・が・り」をつくる

重点目標(柱)



基本目標取組方針

ネットワークづくり
しくみづくり

- ・相談しやすい地域
- ・あいさつがとびかいつながりをつくる
- ・住民と専門職の連携

担い手づくり
(人材不足)

- ・多様な立場の方が地域で活躍できる仕組み
- ・つながる機会をつくる仕組み

参加する場づくり
参加支援(づくり)

- ・集える場/参加できる場の充実
- ・参加しやすい内容の検討(参加支援プロジェクト)

01

北区ってどんなまち～現状・特徴～



多様な人たちが住む、豊かな自然と都市が融合する“まち”

活動計画を策定するにあたり、北区の現状と特徴をご紹介します。北区は、名古屋市のほぼ北側に位置し、南北に長いことが特徴です。名古屋市内でも高齢者の方が多く住む地域であり、特にひとり暮らしの高齢者の割合も市内でとても多いのが特徴です。区内には19の小学校があり、その小学校のエリアを「学区」とし色々な活動がされています。地下鉄や市バス等の交通網も発達し、国道や名古屋高速道

路等の主要道路もあり住みやすい地域といえます。名古屋市内ではありますが、大きな河川や公園も多く緑豊かな自然が多いのも特徴の1つです。また、近年では、名古屋駅や栄駅等への交通の便も良いことから外国にルーツのある方々やワンルームマンションに住む学生層も多くなりつつあります。



02

地域共生社会の実現に向けて
(策定にあたり大切にしたい考え方)

誰もが安心して生活できる“まち”を目指して

地域生活課題が多様化・複合化し、さらにコロナ禍が追い打ちをかけた現状において改めて人と人との「つながりづくり」が求められています。国の地域共生社会実現における「新たなアプローチ」のイメージにおいては「人と人とのつながりそのものがセーフティネット」であると示されています。それを担うのは、本計画でも大切にしている「つ・な・が・り」「支えあい」による地域住民の気かけ合う関係性によるものであると考えられます。また、その一方では「専門職による伴走支援」も重要な取り組

みの1つです。複合的な課題を抱える世帯や制度の狭間に陥っている世帯、自ら相談する力がない世帯に支援が行き届くよう、社会福祉法が改正され、包括的な支援体制構築のための「重層的支援体制整備事業」が名古屋市でも令和6年度より本格実施となります。お互いに連携、協働し、こうした困りごとを抱えた人たちを受け止め支えあうことのできる仕組みを一緒に考えていけるように本計画でもその視点を取り入れています。



社活動計画



03

第5次計画策定の考え方

“つ・な・が・り”をつくる

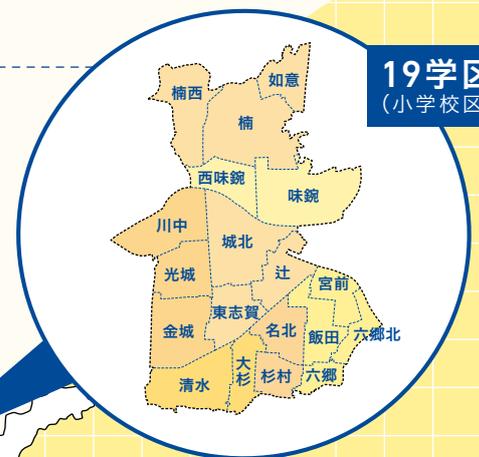
「地域福祉活動計画」は名古屋市内16区で平成16年度から5年ごとに計画策定・推進され、現在第5次計画となっています。第1次計画からの継続性を大切にしつつ、第1次計画から第3次計画については「北区社会福祉協議会の計画」になっている部分も大きく、区社協の事業とかなり関係が深いものになっていました。しかし、第4次計画からは、区社協が事務局となり、ボランティアを含む地域住民・関係機関・団体・行政と一緒に「北区の福祉」を考え策定・推進するものとなりました。多様な主体が地域生活課題等の情報を共有

し、地域福祉のあり方や方向性を決定していくものであり、その策定プロセスを含め、区社協が地域福祉を推進する中核としての役割を發揮する仕組みとも考えています。第4次計画中に新型コロナウイルス感染が急速に拡大し、計画推進にとっても大きな影響を与えました。予定していた事業等が中止や延期となり、地域福祉活動においても、地域住民が交流する行事・ふれあい給食会やふれあい・いきいきサロン等が大きく制限されました。

その一方で、「つ・な・が・り」をなくすまいとオンラインを活用し、創意工夫をしながら活動を続けてきました。生活においては、飲食業等を中心に、生活に困窮する世帯が増加し、区社協では緊急小口資金等特例貸付の受付業務等を通じ、多数の個別支援を扱うことになりました。その中

で非正規雇用の方々・外国にルーツのあるの方々・自営業の方々等の膨大な相談に対応し、貸付によりさらに負債を負わせてしまうというジレンマを抱えながら一緒に寄り添い、生活を支えるにはどうしたらよいのかと考える機会となりました。

第5次計画では、現状を把握しつつ、地域住民・ボランティア・関係機関・団体・行政と「5年後の北区がどうなるとよいか」を考え「北区の福祉計画」を策定しました。その中で具体的に5年間の計画を作るのではなく、計画の進む方向性を決め、どのように進めていくことがこの計画に関わる方を増やしていけるのかと考えていけるようなプロジェクト方式の計画策定となりました。



第5次計画を推進していくために
令和6年度からの計画推進メンバーによる
ワーキンググループ会議を開催します！

ワーキンググループ会議とは・・・？！

- ☑ 6つのプロジェクトを共有するため、
年6回程度の会議（場所：愛知学院大学等）を行う。
また、各プロジェクトでの打合せも実施する。
- ☑ 毎回議事録等の記録を作成し、
SNS等を活用し共有する。
- ☑ 同じような内容を既にも実施している、もしくは
実施する予定の団体等がある場合は、本計画内で共有。
新規メンバーになっていただいたり、
より実践として広げていただくようにつなげていく。



① きづき・つなぐ・とどけるプロジェクト



※座談会における
このプロジェクトの内容は
YouTubeでも確認できます！

第4次計画では、困りごとを抱えた方に気づいたら相談窓口につなぐ
登録団体(企業や店舗など)の輪を広げる「きづき・つなぐプロジェクト」を実施。

各地にある郵便局をはじめ、すでに61か所の団体が登録しています。

第5次計画では、さらに登録団体の輪を広げつつ、新たに「とどける」視点を加え、
北区内の社会資源等、必要な情報をしっかりと届けるための仕組みを
SNSやHPなどのツールを活用しながら構築していきます。



きづき・つなぐプロジェクトにおける広報啓発グッズ

// 現状と課題 //

- ・多様な人がいる中で複合的な課題を抱える世帯や困っている人が、必要な支援につながっていないことがある。相談先が分からない。身近な相談先がほしい。
- ・相談に来れない方や情報を受け取りにくい方などに、必要な情報が届かないことがある。
- ・地域にある社会資源をうまく連携していけるような仕組みづくりが必要。

重点目標(柱)における本プロジェクトの関連キーワード

人でつながる	地域でつながる	場につながる
潜在的な困りごと 気づける人	きづき・つなぐ プロジェクト協力団体	皆さんが 集まる場に出ていく

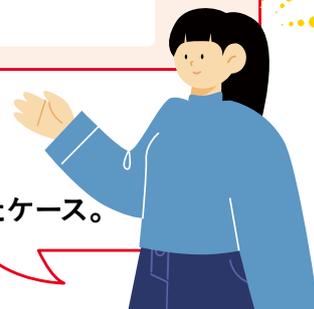
当面の具体的な取り組み例

- ①身近な地域の人と自然な流れで相談できる場、仕組みを考える。
(ゴミ拾い、ちごいち等の多世代交流の場など)
- ②北区内の社会資源等、必要な情報を届ける仕組みを考える。
(SNSの活用、HP、地域の情報紙、広報なごや、など)
- ③「きづき・つなぐプロジェクト」の充実。
⇒協力団体へのインタビューを行い、取り組み状況や、活動のメリット・必要性を発信していくことで新たな協力団体を増やす。

※きづき・つなぐプロジェクトとは
第4次活動計画の中で推進してきた、地域の中で、困りごとを抱えた方に気づいたら、相談窓口につないでくれるやさしい企業や店舗、団体の輪を北区の中で広げていくプロジェクト。

評価方法

- ・身近な地域での気軽な相談先の充実。
- ・福祉情報の新たな発信方法。
- ・「きづき・つなぐPJ」に協力してくれる団体数、相談事例、支援につながったケース。



② 地域で学びあえるしくみづくりプロジェクト



※座談会における
このプロジェクトの内容は
YouTubeでも確認できます！

第4次計画で作成した福祉教育の動画と、福祉教育学習を目的とした出張講座を掲載した冊子「出張福祉のこころを育てるプロジェクト一覧」のさらなる活用と推進。その中で、地域行事等において、障がいなど多様性を持つ方々との接点を増やし、福祉のこころが自然と浸透していくよう取り組みます。また、当事者本人が自らSOSを出せるような働きかけや、気軽に助けを受け入れてもらうにはどうしたらよいかを一緒に考える「助けられ上手プロジェクト」も実施予定。



第4次計画で作成した「福祉教育」に関する動画教材

// 現状と課題 //

- ・学校での福祉教育と地域を関連させたい。
- ・“福祉教育”としてではなく、自然な流れで学べる出会いが少ない。
- ・障がい、子ども、外国ルーツをもつ人たちが同じ地域に住んでいても関わる機会が少ない。
- ・福祉サービスの充実により、地域とのつながりが希薄化。

重点目標(柱)における本プロジェクトの関連キーワード

人でつながる	地域でつながる	場でつながる
地域の中で、知り合い、学びあえる人たちを増やす	近所・日常生活の中で学ぶ	同じ場所で交流

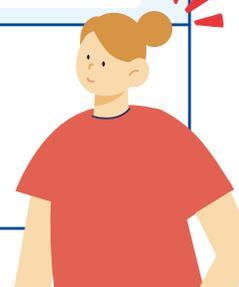
当面の具体的な取り組み例

- ①「※出張福祉のこころを育てるプロジェクト一覧」の活用・推進
⇒アンケート調査や、福祉関係者が受けた相談ケースより、困りごとをお聞きし講座を提案する。
- ②地域行事を考える方へアプローチ。福祉的要素を考慮してもらえるように。
(地域で行う防災訓練を企画する際に、聴覚・車いす・視覚など障がいのある方と一緒に打ち合わせを行うなど)
- ③助けられ上手プロジェクト
(当事者本人が自らSOSを出せるような働きかけ。助けを受け入れてもらうにはどうしたらよいか考え実施していく)

※出張福祉のこころを育てるプロジェクト一覧とは
第4次計画で作成した、主に北区内で活動する団体が行う、福祉教育学習を目的とした出張講座を掲載した一覧

評価方法

- ・出張講座の件数、受講者数、アンケート結果。
- ・地域で実施する福祉教育等、関わってくれた協力者、団体者数。
- ・協力者、参加者の気持ちの変化。つながり。(地域で体験を話したことによって、地域とのつながりが生まれた。行事へ参加しやすくなった等)



③ 地域での支えあいプロジェクト

ちょっとした困りごとを抱えた高齢者の方などに対して、ご近所ボランティアの力で支援し、住民同士の支えあいの意識を高めるプロジェクト。すでに地域支えあい事業を実施している学区では継続しつつ、未実施の学区もあるため、区全体で活動できるボランティアを養成する取り組みを行います。また、持続可能なつながりづくりの冊子を活用し、新たな担い手の発掘も積極的に推進。若年層に向けてITを活用しつつ、支えあい活動の内容を“見える化”し、気軽に参加できるような仕組みづくりを行います。



※座談会におけるこのプロジェクトの内容はYouTubeでも確認できます！



地域支えあい事業における活動(枝切り)の様子

〓 現状と課題 〓

- ・困りごとが多様多様になっている一方で、担い手が不足。育成や継承が必要。
- ・区全体で活躍できるようなボランティアが必要。
- ・地域支えあい事業が未実施の学区があり、実施学区と差が出てきているように感じる。

重点目標(柱)における本プロジェクトの関連キーワード

人でつながる	地域でつながる	場につながる
ボランティアの人を増やす	周知が大切・ITをもっと活用	サロン・イベントで周知

当面の具体的な取り組み例

- ①冊子「持続可能(サステナブル)な仲間づくりはじめてみませんか？」(第4次計画で作成)を活用し、周知PRを行う。
- ②若年層に向けてIT活用(LINE等のSNS、2次元コード、データの活用等)
⇒地域での担い手になってもらえるように、活動の内容を“見える化”する。
- ③サロン等に参加してもらおう担い手の発掘(講座の開催)と活動できる場を把握し、受け皿となる社会資源をまとめる。

評価方法

- ・冊子を活用した際にアンケートを実施。
- ・講座参加者からの聞き取りを実施。



④ 地域行事！活かそうプロジェクト



※座談会における
このプロジェクトの内容は
YouTubeでも確認できます！

コロナ禍で地域行事の伝承が途切れてしまった地域もありますが、
地域行事を活かして担い手の発掘やつながりづくりを実施。

地域の皆さんが地域行事の本来の目的を再確認し、主体的に行事に協力・参加して
もらえるように、若い世代の柔軟な発想や新しい視点を取り込みつつ、
推進していきます。一方で、自治会活動に負担感を抱え、
意義やプラスアルファのことを考える余裕のない役員同士が気軽に交流し、
悩みを共有したり、成功事例が学べる場をつくってサポートしていきます。



地域行事(神社を活用したマルシェ・ちこいちの様子)

// 現状と課題 //

- ・人と人のつながりを意識して行事をしていない。→目的やねらいが定まっていないと担い手が“やらされている”感を覚える。
- ・コロナ後のモチベーションの持ち上げ方が難しい。
- ・ボランティア活動をしたい人はいるが、打ち合わせや活動の多さが負担に。→担い手の不足へ
- ・高齢者向けのイベントが多い。子ども向けのイベントも考える必要性あり。

重点目標(柱)における本プロジェクトの関連キーワード

人でつながる	地域でつながる	場でつながる
ボランティア・ コミュニティサポーター・ 子ども見守りメンバー・PTA・役員	サポート方法・つながりを つくることに時間をかける	地域行事

当面の具体的な取り組み例

- ①地域で活動している自治会長等がお互いの情報を交換したり、先輩自治会長からアドバイスをもらえるような交流の機会(サロンのように参加しやすいもの)を企画・実施する。
- ②名古屋市のコミュニティサポーターと連携した地域とのつながり。
- ③担い手の事情に合わせた無理のない関係づくり。
担い手候補とつながるためにも、子どもと一緒に参加しやすいイベントなどを活用。
(例:行事に至るまでの過程を簡易にする。日程調整をしやすく)

評価方法

- ・交流の機会に参加した方にアンケート調査を行う。



⑤ 生きづらさをともに解決していくプロジェクト



※座談会における
このプロジェクトの内容は
YouTubeでも確認できます！

介護、障がい、子育て、生活困窮、外国ルーツの方々など、
それぞれにSOSの内容が異なり、現在の福祉課題は非常に複雑化しています。
そんな複合的な生きづらさを抱える人や世帯も増えているため、専門職だけではなく、
その人の周りにいる地域住民など、関わる人みんなと一緒に解決していこうという
プロジェクト。そのために「地域共生社会の実現に向けた勉強会」の開催や、
地域住民と専門職で協議する「重層的支援体制整備事業 区連携会議」を
活用しながら推進していきます。



「出張なんでも相談会」の様子

〓 現状と課題 〓

- ・介護、障がい、子ども、生活困窮、外国にルーツをもつ人など、各分野でSOSの内容も違い、
また、複雑化・複合化した生きづらさを抱える人や世帯が増えている。
- ・困って助けがほしいと思っても、生活に余裕がなく地域や専門職につなげられない。
- ・困りごとを抱える人と、地域や専門職との関係性をどう作っていくか。

重点目標(柱)における本プロジェクトの関連キーワード

人でつながる	地域でつながる	場でつながる
相談を受ける人	困っている人につなげられる SOSをキャッチする	相談できる場

当面の具体的な取り組み例

- ①「出張なんでも相談会」の充実や既存の相談会などを広く周知するしくみづくり。
- ②複雑化・複合的な課題を抱えた人や世帯の生活課題について地域住民と専門職で協議される「北区重層的支援体制整備事業 区連携会議」などの活用。
- ③支援者や地域住民を対象とした「地域共生社会の実現に向けた勉強会等」の開催。

評価方法

- ・潜在的な生活課題を発掘する相談会の実施。
- ・相談数や地域住民の周知度。



⑥ 参加支援プロジェクト



※座談会における
このプロジェクトの内容は
YouTubeでも確認できます！

不登校やひきこもりの方々など、誰もが社会参加できる仕組みを検討するプロジェクト。
当事者の視点を活かした活動や、自宅内でも社会とつながれる仕組みづくり、
趣味を活かした活動、新聞を利用したエコバッグプロジェクトなどを実施する
予定です。さらに、重層的支援体制整備事業のチーム員が当事者に寄り添いながら、
社会との関係を築けるよう調整していきます。
そのためにも、当事者それぞれの心のハードルに応じて、
参加できる場所をもっと増やす必要があります。



ゲームを生かした参加支援の様子

// 現状と課題 //

- ・高齢者（認知症の方、元気でも社会とつながりが少ない方）、不登校の子、ひきこもりの方など、参加できる場・機会（居場所）がなくて、社会との接点がない。

重点目標（柱）における本プロジェクトの関連キーワード

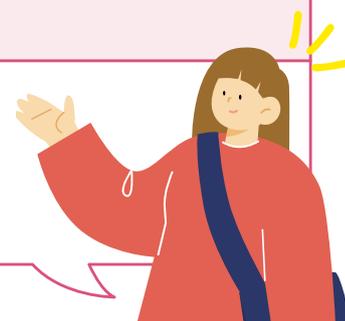
人でつながる	地域でつながる	場でつながる
ボランティア、 認知症の方の社会参加、 社会とつながりが少ない方	参加者がつながる	こども食堂、 不登校の子の居場所 カフェサロン、麻雀、青空広場

当面の具体的な取り組み例

- ①既存する地域の社会資源をホームページ等で情報発信。
（ふれあい・いきいきサロン、子ども食堂のほか、生活課題を抱える方が参加する場）
- ②誰もが役割を持てる社会参加の検討。
（当事者視点を活かした活動、自宅内でも社会とつながれる仕組み、趣味を活かした活動、新聞エコバッグプロジェクト、つながりづくりの拠点「ほっとはあとルーム」の活用等）

評価方法

- ・参加者数
- ・参加支援の場/機会（居場所）の数
- ・協力者（住民・団体・企業等）



第5次北区地域福祉活動計画 策定委員名簿

川村 和光	北区社会福祉協議会 会長	長谷川 孝範	北区社会福祉協議会 理事
長瀬 由子	北区社会福祉協議会 副会長	山口 洋介	北区社会福祉協議会 理事
大島 鈺義	北区社会福祉協議会 副会長	名倉 昌子	北区社会福祉協議会 理事
広瀬 多恵子	北区社会福祉協議会 理事	小林 邦生	北区社会福祉協議会 理事
門川 浩人	北区社会福祉協議会 理事	村瀬 光成	北区社会福祉協議会 理事
久野 保雄	北区社会福祉協議会 理事	北川 邦彦	北区社会福祉協議会 理事
鬼頭 美恵子	北区社会福祉協議会 理事	伊神 雅彦	北区社会福祉協議会 理事
鈴木 潤子	北区社会福祉協議会 理事	三溝 芳隆	北区社会福祉協議会 監事
岸部 敬子	北区社会福祉協議会 理事	佐藤 悦弘	北区社会福祉協議会 監事

令和6年3月31日現在

第5次北区地域福祉活動計画 作業部会委員名簿

藤井 勉	愛知学院大学社会連携センター	大島 亜友美	なごや子ども応援委員会
佐藤 由佳	公募委員	平田 真季	北保健センター保健予防課
近藤 由香	NPO法人子育て支援のNPOまめっこ	小林 康信	きた災害ボランティアネットワーク
平林 幹	北区役所民生子ども課	宮澤 幸一	北鯉城会
井階 弥可	北コスモス会・かけはし	森 日出子	辻民生委員児童委員協議会
萩原 浄子	北区手をつなぐ育成会	佐藤 純治	めいほく福祉会 鳩岡の家
井本 峰子	北区介護保険事業所	大原 伸晃	北区役所地域力推進室
岩田 修治	商店街振興組合・清水学区区政協力委員協議会	内山 勝彦	北区西部いきいき支援センター
上松 昭夫	北区身体障害者福祉協会	岡蔦 真木子	北区役所福祉課
宮原 あけみ	北区手をつなぐ育成会	山崎 悦男	東志賀学区区政協力委員協議会
中島 哲也	北区東部いきいき支援センター	松島 周平	北医療生活協同組合
水鳥 美雪	名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター大曽根	野田 寿和	六郷北学区ご近所ボランティアコーディネーター
谷口 元	東志賀学区ご近所ボランティア・区政協力委員協議会	荻野 直人	北区障害者基幹相談支援センター

令和6年3月31日現在

「第5次北区地域福祉活動計画」 推進メンバー大募集！

一緒に誰もが安心して生活できる
北区をめざしませんか？！

この計画は、6つのプロジェクトを色々な方とつながり取り組んでいくものとなっています。一緒にプロジェクトを盛り上げてくださるメンバーを募集します。

この冊子や座談会動画をご覧ください興味をお持ちの方等、詳しくは下記まで気軽にご連絡ください。多くの皆さまからのご連絡お待ちしております。

第5次北区地域福祉活動計画

令和6年6月発行

発行 社会福祉法人 名古屋市北区社会福祉協議会
〒462-0844 北区清水四丁目17番1号
北区在宅サービスセンター内
電話：915-7435
FAX：915-2640

印刷 笹徳印刷株式会社